

大館市教育委員会会議録

日 時 令和2年8月21日（金）
午後3時30分
場 所 大館市立長木公民館
第1・2研修室

大 館 市 教 育 委 員 会

大館市教育委員会会議録

1	開会の日時 及び場所	日 時 場 所	令和2年8月21日(金) 大館市立長木公民館	午後3時30分 第1・2研修室
2	出席委員の氏名			
	教育長職務代理者	山 田 和 人	委 員	工 藤 啓 子
	委 員	根 田 穂美子	委 員	小笠原 正 卓
3	欠席委員の氏名			
4	委員以外の 出席者職氏名	(なし)		
5	出席した職員の職氏名			
	教 育 長	高 橋 善 之	教育総務課長補佐	鈴 木 明
	教 育 次 長	本 多 恒 博	教育総務課長補佐	石 田 誠 樹
	教 育 監	山 本 多鶴子	学校教育課長補佐	小松原 功 秀
	教育総務課長	成 田 浩 司	生涯学習課長補佐	糸 屋 みさえ
	学校教育課長	坂 上 隆 義	中央公民館長	金 谷 浩
	学校教育課主幹	野 呂 謙 一	歴史文化課長補佐	加 賀 至
	教育研究所長	米 澤 貴 子	教育総務課総務係長	篠 村 朋 子
	生涯学習課長	一 関 留美子		
	歴史文化課長	長 崎 美 幸		
6	会議録署名委員 教育長・根田委員			
7	会 議 書 記 教育総務課 総務係長 篠村 朋子			
8	教育長報告			
	(1)	第30回大館市生涯学習フェスティバルについて		
	(2)	東日本鉄道文化財団地方文化事業支援の対象事業の決定について		
9	議 事			
	協議第25号	令和2年度大館市一般会計補正予算(第8号)案		
	協議第26号	令和2年度9月補正(追加)歳出予算要求の概要について		
10	その他			

議 事 の 経 過	
	開会 午後3時30分
教育長	ただ今より教育委員会会議を始めます。 会議録署名委員については私と根田委員にお願いします。
教育長	会議録についていかがだったでしょうか。 (「異議なし」の声あり) それでは、承認とさせていただきます。 では、4の教育長の報告事項(1)(2)を続けてお願いします。
各課長	(「(1)第30回大館市生涯学習フェスティバルについて」 「(2)東日本鉄道文化財団地方文化事業支援の対象事業の決定について」を、 資料により報告)
教育長	ご意見、ご質問はありませんか。
委員	今年度の生涯学習フェスティバルはコロナの関係で縮小されているかもしれませんが、チラシを拝見して、内容は昨年同様に充実していると思います。この事業は、大館市にとってはメインの大きな事業で、市民の方々の意欲も引き出し、また、横のつながり縦のつながりもしっかりとして、これからのリカレント時代にも非常にいい影響を与えてくれると思います。これを機会に、自分が気付かなかった何かを見つけ、それが、大館市の中に活かされてさらに発展して行けばいいなという思いで、チラシを拝見しておりました。ありがとうございます。 歴史文化課の東日本鉄道文化財団地方文化事業支援の対象事業の決定についてですが、これは、申し込みをして、支援を受けるのでしょうか。
歴史文化課長	こちらは、JR秋田支社からの申し出があり承諾したものです。
委員	ありがたいことですね。文化財は維持管理が莫大に係るので非常にありがたいことだと思って拝見しておりました。有形無形にかかわらず、地域の文化意識の高まりが、文化財の修復や保存に非常に影響していると思います。ですから、非常に大事に保存、修復して、若い人たちにつなげて行けばいいと思います。
教育長	はい、他にございませんか。
委員	生涯学習課にお伺いします。生涯学習フェスティバルに関して、鳥潟会館の文化財庭園フォーラムが主催者の意向によって中止ということですが、中

	止する明確な基準が示されているのでしょうか。
教育長	これに関しては、歴史文化課ですので、そちらでお答えいたします。
歴史文化課長	主催者は、チラシに記載のとおり「文化財庭園保存技術者協議会」で、京都に事務局を置いている協議会となります。今回、実施時期が生涯学習フェスティバルの期間に合ったため、チラシに掲載したのですが、もともとは、5月に一週間ほどの期間で実施する予定であったのが、コロナの第一波の関係で、10月に延期したものです。庭園技術者の多くは関西方面の方が多く、少なくとも50名程度が一週間滞在する訳ですが、関西圏でのコロナの感染が拡大していること、また、秋田県でもクラスター感染者が増えていることなどから主催者判断で中止となったものです。
教育長	大館での開催を、再来年に実施する計画をすることです。
委員	楽しみしています。よろしくお願いします。
教育長	他にございませんか。よろしければ、報告を終わりました、議事に入ります。
各課長	(「協議第25号令和2年度大館市一般会計補正予算(第8号)案」 「協議第26号令和2年度9月補正(追加)歳出予算要求の概要について」 を、資料により説明)
教委育長	ご意見、ご質問がありましたらお願いします。
委員	「大館版リカレント教育」ですが、考えていた以上にしっかりとした内容で、具体的なことがはっきりと作成されていてちょっとびっくりいたしました。一人一人がこれを機に関心のある勉強をして、資格を取るとか、資格を取得した方は、意欲を持って市に貢献するということになると思うのですが、NPO法人にするということは、新たにまた、事務所やら備品やら必要となるでしょうし、職員も必要となると思いますが、NPO法人とはどのようなものなのでしょうか。
生涯学習課長	この事業を生涯学習課の直営事業としてやっていくためには、ポータルサイトが大館市のホームページの中に組み込まれるというイメージになってしまいます。現在、その他のポータルサイトはすべて、大館市のホームページの中に組み込まれています。そうなれば、大館市の公共のネット環境を作らなければならないので、リスク管理、セキュリティー管理が非常に難しくなると思われます。そのため、NPO法人が、単独で民間としてネット環境を持ち、ポータルサイトを運営できる方が自由の采配が利くと考えます。直営ではやれない民の活力がここに活かされるというように考えています。

	<p>ネット環境とは関係なく「大館教育の産業化、ブランド化」がありますが、これに関しては、NPO法人がやりたいからと言って勝手にやれるものではなく、現在受けている数十件の視察をNPO法人が受けれるわけではないので、そこは、教育委員会と連携し有料としてやれる部分をNPO法人が担うというイメージです。そこの住み分けをどうしていくかということ、今年度、公募型プロポーザル方式で、仕組みを作れる、提案してくれる業者に、仕組みづくりの提案を発注するというところから始めたいと思います。この計画書は生涯学習課で作成したのですが、これが現実的にやれるかといえはまだまだ不足で、すぐ事業化になるものでもないと認識しておりますので、これを土台として、具体的にどう進めるかという仕様書を今年、発注したいと思っています。</p>
委員	<p>目標のなかった人たちが、これによって目標を持ち社会貢献につながっていくと思います。よろしくお願いします。</p>
委員	<p>何回か、このリカレント教育について説明を受けておりますが、「大館教育のブランド化・産業化」と「大館版リカレント教育ポータルサイト構築」が別物というイメージであったのですが、今日、説明を聞いて目先のことだけでなく、これから先、何十年も先を見据えての連携だということがよくわかりました。採択決定ということで、課長さんはじめ、課の職員の熱意の賜物ではないかと思っています。学び直しの講座としては、単なる趣味の講座とは違うのですよね。学び直しをして、その方たちが活躍できる場とか、必要とされる場が大事なのかと思います。そうなった時に、学校の教育と関連したところでは、活躍の場が学校にもあればいいのかなと思います。市民参加という項目がありますが、学校では学区のPTAや地域の方に限定されるのですが、もっと、広く市民ということで周知できれば連携という効果が出てくるのではないかと思います。講座は、趣味で終わらないで「リカレント教育」というのは収益につながっていくのが大事ですよ。そういったところの仕組み作りを力を入れて行っただけならば、本当の「リカレント教育」なのかなという気がしました。よろしくお願いいたします。</p>
教育長	<p>確かに面白いです。そういう講習なり研修なりを受けて、資格はなくても専門知識を得た方が、例えば、支援員に優先的に入っていただくとか、そういう工夫が出てくるのかなと思います。他にございませんか。</p>
委員	<p>修学旅行のキャンセル料についてですが、負担軽減で本当に助かるなと思います。修学旅行の現状としてどのような感じになっているのか教えて下さい。それともう一点、コロナで予定がいろいろ変わったと思うのですが、子どもたち、親御さんの声というものは、どういうものが出ているのか教えていただきたいです。</p>
教育監	<p>中学校の修学旅行は本来であれば、5月の末の週に全部の学校が東京に行</p>

	<p>く予定でしたが、2学期にずらすことで、東京に行けるかと思って時期だけをずらしたのですが、状況がだんだん悪くなってきて行先も変更しなければならない状況になってしまい再検討がかかっているところです。学校も2回目3回目と検討を重ねている状況であります。今現在というところでは、小学校は1泊2日で、多いところは岩手県、県内、青森県青森市に行く学校もあります。中学校は東京から、日光などの北関東に変えたのですが、だんだん状況が悪くなってきたので北東北ということで、再度、変更をかけています。小学校では、県内というところもありまして、内陸線を貸し切って県南へ行く学校もあります。ふるさと村や角館の見学、そこから、岩手に行って平泉や宮沢賢治記念館といった学習につなげていくコースを、中学校では、三陸の方を回って震災に学ぶというテーマに変えて検討しています。2学期が始まり保護者説明会が始まりますが、その中で、どれくらいの保護者が賛同してくれるか難しいところです。トップバッターが東中学校になるのですが、1学期に9月5日出発で計画を立てた時には、1割ぐらいの親御さんから、行かせることはできないというお返事がありました。これは、親御さんたちが医療関係、介護関係に勤めているので家族の中で県外に出るとなると自分の仕事を休まなければならないという都合があるということでしたが、夏休みを挟んでみると意外と危ないんじゃないかということで、修学旅行に同意できないという親御さんが増えています。2学期に入り学校としてはもう一度、修学旅行について検討をするとのことでした。</p>
委員	<p>あるところから聞こえてきた話ですが、中学生で、昨年度までは東京方面に出かけてディズニーランドに行っていたというパターンが往々にして多かった訳ですが、今回、コロナがはやってディズニーランドに行けなさそうになった時に、親も子も「だったら行かなくてもいい」ということを話していたご家庭もあるということを知っています。宿泊的行事は法に定められていますが、修学旅行の中身を考え直す時期になっているのかなと思います。今までは、東京に行って、ディズニーランドに行っていたということが当たり前だったのですが、日数も含めていろいろ検討し直してもいいのかなと感じています。</p>
教育長	<p>おっしゃる通りで、今まで、深く考えないでやってきたのかなと思いますね。ディズニーランドに行くための修学旅行ではないのです。本来の意味で今回、北東北なり、各学校、苦労しながらもそういうことを目指していることは、いいことではないかと私は捉えています。関連してございませんか。</p>
委員	<p>では、修学旅行の件で思うところがありました。行政では、この時期なので「市内を巡りましょう」という話もあるらしいのです。「修学旅行」は読んで字のごとく学び修めるということですね。そういう意味からすれば、こういう時期であればあるからこそ、例えば、大館市内の隠れた名所なり、隠れた産業遺構などがたくさんある訳です。そういうところを皆で巡って歩くということが、ある意味リカレント教育につながってくるところでもあるん</p>

委員	<p>ですね。そういう教育を僕ははしていたのかというところで、ある意味すごい反省点になるのかなという気がしています。そういう点も含めながら、今、おっしゃる通り、学ぶための旅行とはいったい何なのだろうかと原点に帰ることが今回必要なのかなと、つくづく感じます。</p> <p>私たち、子どものころは、一緒に寝泊まりをしてお喋りもして、それも楽しい修学旅行だったんですね。名所を見るのもいいんだけど、それ以上に友達との触れ合いが楽しかったように記憶しているのですが、今の子どもさんたちは、そういうのはどうなのでしょう。子どもさんの意識が、ディズニーランドに行って楽しむ、楽しい場所に行って楽しむだけ、そのための旅行という意識だったのか、今、工藤先生から初めてその話を聞いて、子どもたちの意識がよくわからないなと改めて思いました。</p>
委員	<p>私の子どもの限定な情報かもしれませんが、修学旅行に行くまでは興味が向かないです。行って見て、彼らなりの感想を持って帰ってくるようです。高校生の子も、中学の修学旅行ではディズニーランドへ行っていますが、今、高校でも修学旅行について検討をしているようですが、やはり、先ほど、工藤先生がおっしゃったように修学旅行＝みんなで遊びに行くといった意識が多いのが現実のようです。先ほど、山田委員がおっしゃったように、本当に勉強になる、何かを感じてくれるところに連れていくと、彼らは、それぞれ感じ取ってくれると思うんですね。そういう修学旅行であってほしいと思います。そして、そのご褒美の中に、ディズニーランドがあってもいいと思うのです。修学旅行について考えるいい機会ではないかと感じています。マイナスな話で申し訳ありませんが、中止に関して何か明確な基準はあるのですか。</p>
教育監	<p>今現在のところでは、市としては設けていません。というのは、感染の地域を避けて目的地を変更しているのです。なるべく、中止しないで実施してほしいというのが願いです。これから先、どこもいけなくなった状況になった場合には、基準を設けて学校へ示さなければいけないのかと思います。</p>
委員	<p>校長先生が判断に難渋なさると思うので、この先、行き詰まってきましたら指針を出していただければ校長先生もそうですが、保護者、子どもたちもある意味、安心できるのかなと思います。</p>
教育長	<p>修学旅行の実施につきましては、校長先生の判断ですが、行かせたいと思う保護者と、行かせたくないと思う保護者が現実的にいるのです。基本的には、学校にしても修学旅行にしても行うというのが基本方針です。参加させたくないとか、学校の方でも出席させるのは心配だという方であれば、欠席扱いをしないで扱うというところは、保障しながら進めて行きたいと思います。実施するということは、基本方針であるため、多数決で決めるという話</p>

	<p>ではなく、大館市としてのルールだということです。この方針は、大館市の校長へは伝えてあります。</p> <p>他にございませんか。</p>
委員	<p>リカレント教育について、伺います。事業概要に9つ項目がありますが、この事業の一番の目的は何ですか。</p>
生涯学習課長	<p>具体的な事業はいっぱい書いてあるのですが、根っこにある一番の本当の目的は、人生100年最後まで、きちんと自分らしく社会貢献だったり、生涯現役でもいいんです、100歳までお金を稼いでくれてもいいと思うのです。自分の寿命がある間は学ぶ意欲を持って、社会で活動できる人生を送りましょうというメッセージがこの事業を立ち上げる根っこにあるということです。ただ、こういう、夢といいますか、感情論といいますか、それだけでは2,000万円は勝ち取れないので、目標数値KPIは何なのか、とすると大館市で新たに働く人数、ただ、地方で働きたいとする人数を獲得するという事は、都会だけではなく、どこで働いても自分のやりたい仕事がある、勉強し直してここで働ける、そうやって人生100年を生きて行く。高校生からターゲットにしたのは、何か自分のやりたい仕事についても、いつでも自分の人生の設計図を書き直すことは出来るんだよという、社会人の学び直しという概念も知っておくべきだという思いがあります。就職先であったり、人生を一度決めてしまっても、いつでもプラス、プラスで積み重ねていって、それを変えることもできるし、ステップアップすることも必要なんだよというリカレント教育の概念を、今一度、市民にお伝えしたい。海外では、何十年としたりリカレント教育の歴史があり、それは、終身雇用制度ではないという文化があるからですけれど、日本に根付かなかったのは、仕事を辞められると次の人材の確保ができない、いわゆる損失が多いという日本の社会ですので、なかなか定着していないのです。そうであっても、今、大学を2年3年入り直しても、夜でも朝でもちょっと頑張って勉強し直すことによってプラスアルファのお金とプラスアルファの人生の豊かさをつかむべきではないかなというのが、根っこにあるのです。この事業は地方創生、持続可能なまちづくりの事業ですので、都会で学び直すのではなく、大館に居ながら学び直しし、さらに大館でステップアップし、再就職する。大館で学びたい人を呼び込む、という持続可能なまちということです。教育の向上と人口の増加を狙わなければならないということです。人口増を狙うとなれば薄っぺらな言い方になってしまうのですが、本当の目標というのは、人生100年を心豊かに生ききるためのプログラムを作りたいということです。その中で、大館が誇る「ふるさとキャリア教育」という大館型教育力という10年の歴史を、大館の人たちだけが自己満足して知っている、どちらかというと教育関係者の方たちで終わっているのですが、それをもっと市民に広げたいというのがもう一つ具体的な目標としてはあります。</p>
委員	<p>本当にご難儀されたと思うのです。よく頑張ってくださいました。こうい</p>

	<p>う話をしたかったのです。事業の芯がしっかりしていないと成り立たなくなってしまうので。芯をしっかり持っていることが重要だし、それをやっていくことによって大館は間違いなく変わってくると思います。豊かな人間が豊かに学べる大館を目指すというようなキャッチで、基本的なことをしっかりと押さえてこの事業に対して取り組んでほしいという思いが、すぐあります。ある意味、情念みたいところで押さえて行かないと、厳しいものがありそうな気がするので、ここまでやっていただいたのですから、是非とも成功していただきたいし、応援したいと思っています。一番難しいのは、大館教育と企業の連携だと思います。日本の場合は企業が学校だったのです。終身雇用の中で企業が再教育をしたのです。今は、そうではなくなってきたので、目の付け所は良いと思います。今、学校は自分の意見を発信できる場所です。社会がそういう人間でないと成り立たなくなってきたのです。それを、どうやって企業と結び付けていけるのかということ、僕らも企業家として真剣に考えて行かなければならないのです。若い人たちがどんどん入ってくるのに、僕らのような教育を受けた人間は擦り合わせができなくなってきたのです。そこで、「大館版リカレント教育ポータルサイト構築」でしっかりととらえていただき、「大館教育のブランド化・産業化」と合わせて、しっかりとした仕組みづくりをお願いいたします。</p>
委員	<p>ある意味、働き方改革につながるかもしれませんし、人の流れも変化するかもしれませんね。コンパクトシティといいますが大館市の活性化を生むというか、非常に期待したいところです。</p>
委員	<p>市民と共有できることが大事だと思うので、大きな目標に向かって頑張っていたきたいと思います。</p>
委員	<p>私もそう思います。それが、次の大館を作るキャッチだと思うのです。ここからしか、大館は始まらないと思う。正直な話、産業とかいろいろたずたになっっているわけですから、人間力を高めるとなるとここしかないのです。ここが、人間の根幹にかかわるところであって、そういう人間が集い合うことによって豊かな教育が受けられる町がここなんだよというイメージをこの中で作り上げていけると、本当にすばらしい事業になっていくと思うのです。</p>
教育長	<p>ふるさとキャリア教育で幼保小中までは成果を出しているし、60歳以上の高齢者の方は公民館活動などが盛んであるのですが、若者、中年はずぼと空いてしまう。そこを埋める事業ではないかなと思います。ふるさとキャリア教育生涯学習版という感じですね。</p>
委員	<p>今、教育長が中年といいましたが、大館では今、中年が一生懸命頑張っているのです。きりたんぼにしてもその他のことでも、いろんな形で頑張っているのです。彼らなりに学びながらやっているのです。彼らの学びの仕方をポータルサイトの構築の中で取り入れながらやっていただきたいと思います。</p>

教育長	す。
生涯学習課長	ありがとうございます。では、承認ということで次のその他に入ります。
委員	「成人式の開催についての最終判断を12月に延期したい」旨を口頭にて報告
生涯学習課長	最終判断は実行委員がするのですか。
教育総務課長	市が判断します。実行委員からは意見を伺いたいのです。
教育長	(「来月の開催日程」について)
委員	他に、委員の方から何かございますか。
教育監	文部科学省が学校へのスマホの持込みを認めた件で、大館市はどうなんでしょうか。
委員	災害や不審者などで必要だという認識ですが、大館市の場合は、引き渡し訓練をやっていますし、都会と違って、学区外の学校に1時間もかけて通うということもありませんので、緊急という使い方では必要性はないと考えます。ただ、中学生で学校の帰りに塾に行かなくてはならない生徒で、保護者と連絡を取るという場合は、保護者が学校へ申請して許可をもらい、朝、登校した時に先生へ預けて帰りに受け取るということは今もしています。
教育監	小学校の算数、理科、英語が教科担任制になると新聞報道があったのですが、どうなのでしょう。
教育長	もともと、小学校の高学年になると理科など専門性がある教科は、学級担任を持っていない先生や、教務主任、教頭先生などが指導しています。これから先、もっと専科性が進んでいくということで期待されるのは、今は学校にいる先生方の中でやりくりをしているけれども、プラスアルファで人を配置してもらえる方向で進んでいければいいなと思います。
教育長	5、6年生になっても学級担任がすべてやるというのは、教育学的に見ても無理があります。ピアノが苦手とか、退職間際の先生が英語を教えなくてはならないとか、本来は出来なくてはならないことですが、教師にも、得意、不得意があります。より、適切な形で専門性を持った先生の配置というのは原理として正しいし、実態にも合うことなんです。学校規模によって、大規模校であればプラスアルファの定数もあるのですが、小規模校だと物理的に不可能なんです。中教審が言っているシステムを実現するには、職員定数を増やさなくてはいけないと思います。教職員の定数増の方に話が向いて

<p>委員</p> <p>教育長</p>	<p>くれればいいとは思いますがね。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>よろしいでしょうか。では、これで教育委員会会議を終了いたします。</p>
	<p>会議終了時刻 午後4時45分</p>